

**釜石発****韋駄天競争で避難を伝承**

津波避難の大切さを後世に伝えようと参加者が高台へ一気に駆け上がる競走が釜石で行われました。この新春韋駄天競走は津波避難の大切さを後世に



伝えようと避難所になった高台にある寺「仙寿院」が4年前に始めたものです。今年は子供から大人まで6つの部門に123人が

参加。ゴールの仙寿院を目指して300メートルの急な坂を一気に駆け上がりました。(2/4 ニュース)

**陸前高田発****自治会役員の交流会**

沿岸に整備された入居100戸以上の大規模な災害公営住宅から自治会役員など70人が参加しての交流会が陸前高田市で開かれました。コミュニティ支援に取り組んでいる岩手大学が開いたもので、参加者は役員の選び方や自治会に若者を参加させる工夫など課題や解決方法を話し合いました。県内では8割以上の災害公営住宅が完成していますが、自治会役員は経験が乏しい人も多くこうした情報交流の場が求められていました。(2/11 ニュース)



以上。県内では8割以上の災害公営住宅が完成していますが、自治会役員は経験が乏しい人も多くこうした情報交流の場が求められていました。(2/11 ニュース)

**大槌発****旧役場庁舎解体で請願書**

解体か保存かを巡って意見が分かれている大槌町の旧役場庁舎を巡り、先週結成された「おおづちの未来と命を考える会」の高橋英悟会長が平野公三町長に議論に時間をかけるよう請願書を提出しました。この中では「関連予算案の提出の先送りを求める議会の意見書に対して十分な検討が行われていない」「町民は旧庁舎解体問題は持ち越されているとの認識で、震災の検証も不十分」と指摘しています。これに対し平野町長は町民説明会を開いた上で、予定通り3月議会に解体に関連する予算案を提出する考えです。(2/13 ニュースエコー)



以上。県内では8割以上の災害公営住宅が完成していますが、自治会役員は経験が乏しい人も多くこうした情報交流の場が求められていました。(2/11 ニュース)

**大槌発****吉里吉里駐在所が再建**

津波で流失した大槌町の吉里吉里駐在所が再建され開所式が行われました。新しい駐在所は海岸に近い場所にあった元の場所から500メートルほど離れた高台に整備されました。おとし3月に駐在所の担当となった勝田純巡查長は、これまで大槌交番を拠点に業務を行な



ってきましたが、今後はこの新しい駐在所で地域の安全を守ります。(2/13 ニュースエコー)

**宮古発****さんりく元気ラジオ!**

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

みやこハーバーラジオの田澤紗綾さんが、宮古市初の市民劇「拓け、命の道を～鞭牛和尚の挑戦」について伝えてくれました。2月11、12日に宮古市民文化会館で上演されますが、市内の子供から大人まで総勢130人が関わっているという事です。物語は約300年前の江戸時代の宮古を舞台に、三陸地方の道作りに生涯を捧げた鞭牛和尚の後半生を描いたものです。劇中でキャストが歌うほか、音楽隊の演奏も舞台を盛り上げます。田澤さんは「私も出演します。みんなで一生懸命頑張ります」と話していました。(2/7)

**陸前高田発****さんりく元気ラジオ!**

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

陸前高田災害FMの菅野陽子さんが、2月25日に市のコミュニティホールで開催される「高田町新春カラオケ祭り」について伝えてくれました。これはコミュニティ形成や高齢化など様々な課題がある中で「みんなが集える場所で、楽しいことをやろう!」と始めたものです。出場者は各町内会、自治体からの推薦によって決まり20名ほどが参加するとのことです。当日は「動く七夕写真」や道中踊り、昔懐かしい写真の展示会も開かれるということです。(2/14)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIB公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122